

# 第24組 広報

発行日  
2015年1月1日  
第163号  
発行責任者  
組長 美濃部俊裕



## 新しい年への一歩

組長 美濃部俊裕

明けましておめでとうございます。旧年中は組内の皆様方には何かとご協力をいただき心よりお礼申し上げます。

今年には三年に一度の組門徒会員改選の年です。大谷派では今回の改選から組の取り組みに女性の声を反映させるため、組門徒会員の女性選定を促しています。長浜教区では12月の組長・門徒会長合同会で議論を重ねた結果、組の実態に即して女性の参画を進めていくこと、三年後の改選に向けて検討を重ねていくことが確認されました。24組では今回の改選での女性の選出は見合わせますが、課題を整理し男女共同参画の趣旨を踏まえ、その推進に努めていきたいと考えています。

さて、組の青少年部では、子どもたちが土曜・日曜学校に参加できるようにと取り組みを進めています。少子化など課題は多いと思いますが、皆さんの地域、お寺でも子どもができるだけお寺に行ける工夫をお願いします。

仏さんを仰ぎ見ますと、いくつかの特徴的なお姿に気づきます。そのひとつは耳たぶが垂れ下がる大きな耳です。相手の話に耳を傾けることが大切だと教えてくださっているのだと思います。仏さんのようにはいきませんが、私も組内の皆さんの声に耳を傾け、各お寺と組の活性化に向けて取り組んでいきますので、本年もどうぞよろしくをお願いします。

### 東日本大震災復興支援物資報告

この度ご協力をお願いを致しました「東日本大震災復興支援物資」について、各組から下記の通りご提供いただきました。11月11日～13日にかけて、教区内有志の方が、3tトラック3台で東北の被害地へ直接届けられました。24組からもたくさんご提供いただきましたこと、厚く御礼申し上げご報告とさせていただきます。

【長浜教区まとめ・ご提供いただいた物資の総量】

◎お米（白米）8,795kg（約147俵）・餅米120kg・◎飲料水1200ℓ



# 青少年教化の充実

組門徒会長 小高 寛三

新年おめでとうございます

皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は、組門徒会事業に多大のご理解ご協力を賜りますとともに、各事業に多数ご参加いただき厚く御礼申し上げます。

さて、宗教に対する環境が時代とともに変わりつつあります。我々の真宗においても寺院数、門徒数が減少し非常に難しい現状であることが、先の教勢調査で明らかとなりました。同朋新聞によりますと、宗祖700回忌に始まった同朋会運動への取り組みが個々の寺の実態に大きく影響を及ぼしていると報告されています。また今後の教化活動の実施にあたっては、同朋の会に座談会を取り入れることが重要であると示されています。極端な少子高齢化、働き方の多様化など不安定な社会情勢の中にあつて、今大切なのは青少年教化ではないかと私は考えます。

私事で恐縮ではありますが、三歳の孫が食事を終わりますと、手を合わせて「ごちそうさまでした。おいしくいただきました。」と唱えたことにビックリさせられました。誰に教えてもらったのかと聞くと保育園の先生だということです。そして園長先生は僧侶であると聞きました。教勢調査においても、子供会の結成率が高いほど、お勤めのできる門徒数が多いという結果が出ており、幼少期より正信偲にふれることが大切であり、幼少期の保育の重要性が示されております。今後の教化活動にあたっては、以上のことを十分考慮し活発な運営に努めることが我々の重要な使命であると考えます。

最後になりましたが、今年中の皆様方のご多幸をお祈りしますとともに、今後の門徒会事業にご支援をいただきますことをお願いし、ごあいさついたします。

【お正月の「お内仏」のお荘厳】（東本願寺発行「お内仏のお給仕と心得」より）

- 打敷 ご本尊前、上卓・前卓（祖師のご影等を奉安してあればそのご影前も）に打敷をかけます。打敷の色や模様には定めはありませんが、正月のことですから、明るい、まためでたい模様のものがあれば一層よいでしょう。
- 花 お花は若松の真、それに梅、南天、熊笹・柳、椿、水仙、寒菊などを適宜にあしらって挿し交ぜいたします。上卓の華瓶は「櫛」です。
- お鏡餅 お正月はお華束でなく、「お鏡餅」を各尊前、法名前にお供えいたします。「折敷」に杉原紙（白紙）を敷いて供えます。お鏡餅の上には、橙、蜜柿、金柑などその大きさに合ったものを、2・3葉の葉付きのままのせます。

# お寺の掲示板

せいかいじ  
誓海寺（木之本町大音）

今回は、木之本町大音の誓海寺さんを訪問しました。

大音は、皆さんも良くご存じの賤ヶ岳の麓にあり、南の方には田んぼが広がっています。この集落は約九十戸で、当寺は村のほぼ真ん中にあります。

正面の左側に掲示板があり『**人生とは さようならの連続 だから二度とない今日の出遇いに 喜びの涙をながそう**』というお言葉が書かれてありました。前坊守は、本や本山からのお言葉、ご和讃からのお言葉の中から選んで一ヶ月に一回ほど書いていくとのことでした。

その内容は、「朝目が覚めるのもあたりまえ、家族や村の人と顔を合わすのもあたりまえ、ご飯を食べるのもあたりまえ、として日々生活をしているが、一日一日がすぐ経っていく二度とない今日という日に会えたのがうれしい一日にしたいものである。掲示することは、自分がうなずけること

ばが大事である。」とのことでした。

また、住職は「自分中心で、毎日出会っているあたりまえの事に気づかずにいるが、いつでも、どこでも、だれでも生活の中で出会うっている事を、今一度思うことにより、そのことが自分にまた出会うことでもある。」とも、話して下さいました。

大音は、「物事が丁寧で、結束力がある集落である。」ともお話しされていました。

皆さんも一度「誓海寺」さんに、お参りされ掲示板のお言葉に触れられたらと思います。

（取材・広報委員 林）



## 組門徒会・婦人部上山奉仕に参加して

小高 寛三（来入寺門徒）

私は寺の役員をお受けして今回の上山で5回目となりました。烏丸通から門をくぐり、御影堂を目前に仰ぎ数珠を手に拝ませてくださいますと、あらためてその立派さに感動し、またお参りさせていただきましたと、お念仏申しました。臨時に祀られている阿弥陀様に礼拝し、その後工事中の阿弥陀堂の前を通り同朋会館に向かいました。入口には会館の教導様はじめ職員さんが気持ちよくお迎えしてくれました。また寄せてもらいましたと話しかけると、親元へでも帰った気持ちになり心が休まるのを感じました。

一連の手続を済ませると、身の引き締まる入館式となり「真宗宗歌、正信偈」を斉唱し、その後は講義・座談会を、午後には諸殿拝観をして、その立派さに改めて感激しました。参加者全員が朝からの行動を共にしたことでお互いの気持も通じ一層親しみも湧き、夕食後の講義・座談会では活発な意見の交換となり有意義な時間となりました。これぞ上山奉仕に求められる本来の目的かなと思いました。

翌日は早朝より御影堂でご門首による阿弥陀さんへのお勤め、その後親鸞様を前にお勤めや講話を聞きました。引き続き最大の行事である「帰敬式」を男女合わせて9名がお受けになりました。帰敬式のもつ深い意味について教えを受け、厳粛な式に臨んだ受式者の中には感激し目を潤ませる方もおられました。

上山奉仕の目的は、親鸞聖人のお教えを共にいただき法義について語り合うことではないかと思えます。今後一人でも多くの方々のご参加を期待するところであります。



秋～冬

## 青少年部の行事報告



### ワクワク土曜・日曜学校

前号に引き続き、ワクワク土曜・日曜学校の第3回～5回の様子をお伝えします。尚、第4回11月30日(日)の木之本町赤尾の西徳寺での日曜学校は、29日に行われる予定であった伊香具小学校の行事が悪天候により、翌日の日曜日に変更された為中止となりました。

第3回目は10月18日(土)の午前8時30分から高月町西阿閉の覺勝寺にて行いました。参加者は子ども33名、大人4名で、8ヶ寺からの参加でした。この日は天気もよく、お寺の境内には自転車がずらりと並んでいました。こちらのお寺では進行とゲームは委員が行い、お勤めの導師や鑿打ちは子ども達がしました。お話は美濃部組長にして頂きました。ゲームは新聞紙を使ったものを行いました。最初は新聞紙から文字や絵探しをし、次にその新聞紙を破って別の子と交換してのパズル、最後はそのパズルを丸めてゴミ袋に投げ入れて遊びました。



この土曜学校に来た子どもの中には、初めて土曜・日曜学校に来た子どもも多くおられ、「また(土曜・日曜学校に)行きたい」と言う子どももいました。学校以外で大勢の学校の友達と集まることが新鮮だったようです。引率の方からも「自分達も昔は集まって日曜学校をしていた。とても懐かしい」との意見もあり、好評でした。

第5回目は12月14日(日)の午前8時30分から木之本町黒田の明德寺にて行いました。参加者は子ども14名、スタッフも入れて大人7名で、2ヶ寺からの参加でした。引率も兼ねて美濃部組長の参加もありました。この日は前の晩から雪が降っていましたが、子ども達は寒さに負けずに長靴をはいてお寺まで来ていました。こちらでは最初に委員から挨拶をした後は、明德寺で普段行っておられることをご住職の秦さんにして頂きました。最初に真宗宗歌、ちかい、お勤めを行い(導師と鑿打ちは明德寺の子どもがしました)、恩徳讃を歌いました。その後はゲームをしたのですが、チーム分けの為にビンゴゲームをしました。明德寺の子どもの中にはビンゴ係という係があるようです(写真右)。チーム分けの後はステレオゲームをしました(写真左)。子ども達は終始楽しそうにしている様子で賑やかでした。最後に子ども達はお土産に、秦さんが用意された光るペンダントとお菓子(毎回委員が用意)を貰って元気に帰って行きました。



今年度は学区ごとに土曜・日曜学校を行いました。参加人数には大分バラつきがありました。古保利学区での土曜学校の人数が飛び抜けて多かったのですが、元々この学区では古保利仏教会が花まつりを小学校で行ったり、数年前までは他のイベントも年に1回行っていたそうです。それらの今までの実績が今回の参加者数に繋がっているのだと思います。今はないのですが、昔は古保利学区のお寺が持ち回りで日曜学校を行っており、子どもは自転車でそれぞれのお寺に行っていたそうです。

すぐに結果が出るとは限りませんが、「継続は力なり」ということで一年一年積み重ねていき、まずは認知されて定着していくことが重要だと思います。このことから来年以降も引き続き土曜・日曜学校を行っていきたいと考えています。

(青少年部 藤直子)